

企業研修を核とし、学校全体で 人間力育成に取り組む「こうこう ミラ クル プ ラ ン 高高 未来 Clue Plan」

— 新潟・県立 高田高校 —

3年間を通じた“進学校のキャリア教育”として導入された「高高 未来 Clue Plan」。
東京での大規模な企業訪問とそれに伴うプレゼンテーションは、
生徒に達成感と自信を与え、進路選択の視野を広げるのに一役買った。
今年度からは教育活動全般をキャリア教育的視点でとらえ直し、人間力育成を目指していく。

取材・文／永井ミカ

● 実践のKeyword

総合学習

高大連携

企業訪問

グループワーク

学び合い

読解力向上

地域からの信頼も厚い 文武両道を堅持する伝統校

私服の生徒たちにモダンなデザインの校舎、中庭の緑もまぶしい新潟県立高田高校。一見すると新設校のようだが、創立は1874年と全国でもトップ10に入る伝統校で、かつては男子生徒が多くパンカラな雰囲気の学校だったという。進学校としても名高く、授業第一主義と生徒の自主性を重んじながら毎年160人前後の国公立大学合格者を輩出。その一方で全校登山や、毎年2回ずつの遠足と球技大会などの行事、部活動も盛ん。抜群の知名度と地域からの信頼を得ながら、永きにわたって、質の高い文武両道を謳ってきた。

手厚い学習指導と キャリア教育の導入

しかし、新設校の台頭や公立中高貫校の創設、少子化など、周囲の環境の変化とともに、高田高校も変革を迫られていた。教員たちの間に問題意識が生まれてきたのが2005年ごろのことだ。

入学してくる生徒の学力差や卒業年度による進路実績の差、「高高(高田高校の通称)は自由でのびのびしているけれど面倒見が悪い」という地域の声、昨今の生徒の進路意識の希薄さや安易な資格志向…。これらを改善すべく、まず学年主導だった進路指導を進路指導部主導に切り替

え、進路シラバス導入など一貫した進路指導「高高スタンダード」の構築を目指した。放課後や土曜日の補習を充実させたことで、教室や廊下で自習する生徒と質問に答える教員の姿があらうこちらで見られるようになった。また、生徒たちが「学習と生活の記録」というファイルに毎日家庭学習時間やコメントを記入し、担任がコメントを返すというシステムも導入した。

これら手厚い学習指導や、職場見学などの進路学習を取り入れ模索していく中で気づいたのが「進学校における体系的なキャリア教育」の必要性だった。何のために学ぶのかを考え、生き方や進路にかかわる体験をし、学ぶことの意義を理解し学習意欲を向上させる…。今の高田高校にはこうしたことが必要と考え、3年間を通してキャリア教育「高未来 Clue Plan」(以下ミラクルプランという)を構築。09年度、県の「オンラインワンスクール推進事業」の指定を受け、まずは図1のⅢ「社会を知ること」で学びの意欲を高める「の部分を中心にキャリア教育をスタートさせた。

現在のミラクルプランには校内すべての分掌がかかわり、教育活動全般を包括しているが(図2、図3)、ここに至るまでの経緯からたどってみたい。まず初年度は、総合的な学習の時間やHRを利用して、1学年での読解力アップのための取り組みや、2学年でのキャリア研修旅行、全学年対象のキャリア講演会などを実施。運営には進路指導部があたった。



School Data

普通科・理数科 / 1874年創立
 生徒数 / 生徒数908人(男子509人・女子399人)
 進路状況(2010年度実績) / 大学80.5%・短大1.6%・
 専門学校等1.6%・就職0%・その他16.3%
 新潟県上越市南城町3-5-5
 TEL 025-526-2325
 URL http://www.takada-h.nein.ed.jp/

Outline

毎年多くの国公立大学、有名私立大学合格者を輩出する、新潟県でも有数の進学校。公立新潟中学校第四分校として1874年に開校した。上杉謙信の言葉「第一義」を校是とし、伝統行事として全校登山を実施するなど質実剛健の校風を重んじる一方で、制服を撤廃するなど自由な雰囲気も。現在でも「質の高い文武両道」の精神を堅持しつつ、東京での大規模な企業訪問や高大連携など、体験・連携重視のキャリア教育を核とする先進的な取り組みも次々に行っている。

図3 年間計画

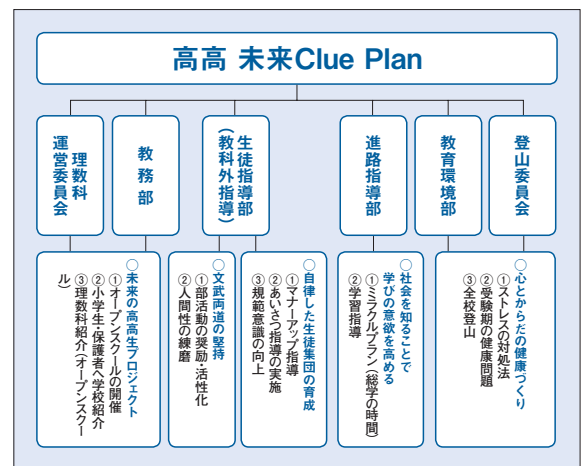
学年	1学年	2学年	3学年
	「読む、調べる、表現する」	「夢は大きく、志は高く」	「挑戦する気概を育てる」
各学年のテーマ	探求的な活動とおして社会を知り、自分の夢について考える。	体験活動とおして自己の生き方や社会での役割を考える。	教科の知識・技能を活用する学習活動とおして、問題解決能力の育成を図る。
各学年のねらい	夢を持たせるとともに、その実現のために読解力、表現力、創造力をつけさせる。	社会の一員としての役割や責任を考えさせ、自他共に尊重できる生き方を模索させる。	自律心と向上心、目標達成意欲を高め、たくましい心とからだを育む。
4月	マナーアップ講習・「高高 未来 Clue Plan」概要説明・春の遠足 オリエンテーション合宿		
5月	キャリア講演会①「創立記念日講演会」		
6月			
7月	キャリア講演会②	大学探訪 東北大学探訪	志望理由書作成講座 進路別学習 (教科横断的学習)
8月	全校登山 キャリアデザイン① 職業研究・ 学部学科調査	東京研修の 事前準備	
9月		未来の高高生プロジェクト	心とからだの健康講座①
10月	秋の遠足	東京研修旅行 実施3日	秋の遠足
11月	小論文講演会	東京研修旅行 報告会	心とからだの健康講座②
12月		進路ガイダンス①	進路ガイダンス①
1月	キャリアデザイン② (企業研究)		
2月	進路ガイダンス	進路ガイダンス②	進路ガイダンス②
3月	キャリア講演会③ 「未来展望セミナー」	大学探訪 大学別模擬講義	

1年生で職業研究、学問研究、企業研究をして、2年生で企業・大学訪問、模擬講義というのが、いわゆる進路学習の流れ。そのほかに、通年で実施するものや、学年をまたいで実施するものがあり、3年間を俯瞰してキャリア教育のプランが立てられている。また、特に受験が近づくとも保健室利用者が増えることから、心とからだの健康に関する取り組みもキャリア教育の一環として、年間計画に組み込まれている。

図1 ミラクルプランの具体的な取り組み6項目

- I 自律した生徒集団の育成
- II 心とからだの健康づくり
- III 社会を知ることでの学びの意欲を高める
- IV 学習指導の改善
- V 文武両道の堅持
- VI 未来の高高生プロジェクト

図2 組織図



ミラクルプラン初年度から 大規模な研修旅行を実施

中でも大規模な取り組みとなったのが、東京へのキャリア研修旅行における企業訪問。校友会東京支部(同窓会)の協力を得て、朝日新聞、大日本印刷、フジテレビ、パナソニック、キャン、マイクロソフトなどの企業や、医療機関、動物園などを希望に応じて訪問。さらに、訪問先でそれぞれの業務内容に応じた新事業を、生徒たちが提案するという課題を設定した。

職業観育成を含めた研修旅行の事前学習は1年前から始まった。訪問したい企



2年生が東京研修旅行でのプレゼンテーションを、1年生の前でポスターセッションとして披露。

図4 企業訪問(求人案)のワークシート

ダウンロード可

- ① リーダー、サブリーダーで司会を行い、「5.求人案の作成」まで話し合ってください。各自がきちんとメモを取っておくこと。
- ② 話し合いが終わったら、分担を決める。原稿の執筆はリーダー・サブリーダー以外の班員で分担(1つのパートを1人ないし2人)してください。それぞれ分担された箇所は責任を持って9月13日(月)までに仕上げること。班員は執筆した文書(印刷物とデジタルデータ)をリーダーへ提出してください。作成手順は、3→4→5→1→2が考えやすい。
- ③ リーダー・サブリーダーは、9月17日(金)の校内プレゼンテーションに間に合うよう、最終原稿をまとめて調整してもらいます。

訪問先 企業名	リーダー サブリーダー	組 番
1.タイトルページ 全員で時間内に決定 タイトルは目立つよう、誰にでも良くわかる、印象的なタイトルにする。		
2.ミッションの確認 担当[:] 何を提案するのかミッションを説明する。自分たちの言葉で噛み砕いて、どこに着目し、どのような方針で取り組もうと思ったのか、などを書く。		
3.近未来の姿と課題 担当[:] 高齢社会、成果主義、終身雇用の崩壊など、近い将来に我々が直面するであろう課題を議論し、その中で、訪問先企業に関係すると思われるテーマを選択し、議論してまとめる。		
4.必要とされる人材 担当[:] 3の課題に対処するため、どのような資質を備えた人材が訪問先企業に必要となるかを、議論してまとめる。		
5.求人案の作成 担当[:] 4でまとめた人材を確保するため、どのような求人を行ったら良いか、人事部のスタッフになったつもりで求人案を作成し、提案する。短く印象に残るフレーズで提示したり、写真・イラストなどビジュアルを活用するのも有効。		

図5 企業訪問のプレゼン用パワーポイント(一部)

鉄で未来を創る
高田高校2年
プレゼンテーション

ミッションの確認
これからの未来を見通して

- ① 海外進出
- ② 他企業との連携

によって景気回復を図る
そのための人材・求人案を考えていく

近未来の姿と課題

必要とされる人材
① 海外進出

- ・語学力
- コミュニケーション手段
- ・地理や歴史の知識
- ・コミュニケーション能力&適応能力
- 違った価値観を持った人たちとの交流

必要とされる人材
② 他企業との連携

- ・コミュニケーション能力
- 能力だけ× 人と意思疎通できる○
- ・自分の意見をもつ→会社をアピールする
- ・相手の意見を聞ける
- 両者に利益があってこそ協力できる
- ・独自の発想
- 一見すると関係なさそうな企業との連携

求人案
優秀な人材を得るために

- ・4、5人でのグループ討議
- ・課題作文の実施
- ・一般教養の試験
- ・外国語での対話試験

業を研究しプレゼンテーションを行ったり、職業人講話やマナー講座も開講。訪問日が近づけば、当日は何を学ぶべきかを掘り下げていくとともに、新事業提案のための準備もした。提案のためには企業研究はもちろん、業界全体や社会のニーズなどを考えることが必要であり、その作業を通して職業と学問、そして自らの進路と社会を結びつけて考えられるようになることをねらっていたのだ。

当日の企業でのプレゼンテーションそのものも、またとない経験となった。中心となって企画した進路指導部長の羽豆二秀先生は言う。「当日は緊張のあまりなかなかバスから降りられない生徒もいました。それだけに訪問後の達成感は大きかった。社会における企業の存在感が感じられたよ

うです」。この後、生徒たちは自分の適性を考えながら進路決定に取り組み、本格的な受験勉強に備えていったのである。

**好調な取り組みも大幅見直し
2年目のテーマは「学び合い」**

事後のアンケートでは80%を超す生徒が企業訪問を「大変満足・満足」と答えるなど、上々の滑り出しに見えたミラクルプランだが、2年目はより良いものを目指して大胆に変更を加えることになった。

話は少しそれるが、同校には昔からネーミングにこだわる文化があった。例えば各学年団には愛称があり、現在の3学年は校歌の歌詞からとった「**岨汪々々**」学年、略して「**岨汪**」学年。ここから生まれたカジラ

というキャラクターもある。既卒の学年についても、教職員の間では〇〇学年という愛称が定着。こういうことが、団結力の強さや校内の明るいムードにつながっているようにも感じられる。

取り組みも、その学年のオリジナリティを出していくため、内容を変更し、ネーミングを変えようといったことをする。「キャリア研修旅行」は10年度には「東京研修旅行」と名を変え、上越教育大学教職大学院西川研究室のアドバイスを受けながら、まったく新たな気持ちで取り組むことになった。「積極的に改革を進めた前任者は常々『教員が汗をかかなければ生徒のモチベーションは上がらない』と書いていました。教員自身がつまらない企画だと思ってしまうと、生徒にそれが伝わります。だから、毎年

新たにチャレンジしていくことを目指しています」と羽豆先生は言う。

具体的な変更点としてはまず全生徒が進路志望に関係なく抽選で決められた企業を訪問することに。10名程度のグループに分かれ、教員の引率もなし。とにかく一度、自分たちの足で企業を訪れ視野を広げる体験をすることに主眼を移したのだ。

プレゼンテーションの内容も、各企業の人事部のスタッフになったつもりで「求人案」を作成するというミッションに変えた。これからの人材を考えると「共通テーマ」を与えることでグループ間による「学び合い」の効果が生まれることをねらったものだ。ワークシート(図4)を使い、ミーティングを重ねながら事前学習を行う。授業時間外も使い、10時間ほど費やしたグループもある。最



3年担任・進路指導部
五十嵐慎之介先生



3年担任・進路指導部
保坂哲先生



進路指導部長
羽豆一秀先生

図6 読書レポート ワークシート

ダウンロード可

1年組番氏名	提出日 月 日 ()	
書名・作品名		
作者名 (翻訳者名)	出版社 (シリーズ)	
本文引用(ページ数を記入) ※興味深かった点を抜き出す	引用理由	
感想・疑問など		
理解度 ☆☆☆☆☆	お薦め度 ☆☆☆☆☆	総合評価 ☆☆☆☆☆
グループ討議を通して		
検印		

最終的にはパワーポイントにまとめ(図5)、各訪問先でプレゼンテーションした。

このとき担任として指導にあたった保坂哲先生は「相手を説得する材料を準備して、企業でプレゼンテーションすることによって得る達成感や発見、やりとげた自信はほかには代え難いと思います。家で学習意欲が増したとおっしゃる保護者もいました」と言う。同じく担任の五十嵐慎之介先生は「思ったより指導が難しく、マンネリ化を脱するいい機会。抽選で訪問先を決めるというのも、視野を広げるという意味でかえってよかったと思います」とのことだ。

また、求人案の作成においては、社会が求める人物像を誰かに教わるのではなく

自ら考えつかみとるという効果も大きい。「資格が大事だと思っていたが、社会では語学力やコミュニケーション力が求められることがわかった」(3年・木南紫巨さん、

「提案に対し企業の人からも疑問点を投げかけられて勉強になった。事前学習の時間が短かったのが残念。もっと深い内容のプレゼンにしたかった」(3年・綿貫静香さん)などの生徒たちの声もあった。

今春、初年度の研修旅行に参加した生徒が卒業したが、羽豆先生によると「生徒の進路選択の幅が例年より広がった」とのこと。そして現在は、3年目の取り組みについて進路指導部と学年団が企画を練っている最中。36のそうそうたる企業に対して行うプレゼンテーションの内容は、やはり昨年度のものとは変える予定である。

各学年の生徒を分析し 必要かつ効果的なプランを作成

もうひとつ、同校で効果を上げている取り組みが、実施3年目にしてミラクルプランのひとつに位置づけられた読解力アップ講座である。この取り組みを始めたきっかけは、09年度入学生の入学直後の模試で、例年に比べて国語力が低かったこと。内容は「スクラップ・リレー・ノート」と「グループ読書プログラム」の2種類で、1学年が通年で行う。

スクラップは、気になった新聞の切り抜きをグループで回覧し、コメントをつけてゆくといいもの。「最初はスポーツや芸能ネタを選ぶ生徒が多いのですが、そういうものだと、そのうち自然と同級生のコメントがつかなくなってきました。そこで、社会的関心が高い記事を選び、コメントの内容も徐々に深くなります」と羽豆先生。ここにも、学び合いの効果が生きている。

読書については、学年団の先生方が生徒たちの特徴やレベルを考えながら、7分野の課題図書を選定。生徒は推薦文などを読んで各分野から1冊ずつ(年間で合計7冊)選んで購入し、読書レポートを書く(図6)。そして、これも同じ本を読んでいるグループで自分の考えを発表し合うのである。

国語力の低かった09年度入学生は、1学年7月の模試では学校別順位は全国163位だったが、2学年11月には51位に。特に国語力は飛躍的に伸びていた。この伸びの要因は「生徒の努力と担任団の愛情」

という羽豆先生。ミラクルプランにもその精神はよく反映されており、学年の生徒の実力をよく分析しねらいを絞って努力させ、レベルをうまく引き上げるハードルを用意して各取り組みを実践している。

人間力の育成を目指し 学校全体の取り組みに

丸2年間これらのことを実践したうえで、さらなる気つきは「人間力」の大切さだ。学力は勉強だけでつくものではなく、5教科以外の科目や読書、部活動、学校行事などでの学びが大きくかかわってくる。ミラクルプランは進路実現を含めた人間力の育成を目指すキャリア教育プログラムであるべきと考え、各分野での教育課題を検証し直した。すると、伝統的な学校行事や部活動も、読解力アップ講座など新しく取り入れたことも、すべてがキャリア教育(「ミラクルプラン」ととらえ直すことができる。またそうすることで、新たに委員会を立ち上げる時間はなくても、全教員がキャリア教育にかかわり、それぞれの課題に対応し解決に向けた実践を行うっていくことができる。組織図と年間計画を整理し直し(図2、図3)、キャリア教育を教職員の共通認識とすることを目標に、ミラクルプランは今年度新たなスタートを切ったところだ。

「学校全体を巻き込むのはまだまだこれからの課題」(羽豆先生)とのことだが、同プランの今後の発展が楽しみだ。